

# 四、心理学の立場から

姫路工業大学

守 屋 光 雄

## 一、私の立場

結論から云うと幼児保育は、教師又は教科中心の劃一保育であつてはならない。児童中心、児童の自発性、自主性を重んじ、人格を尊敬し合う保育が必要である。しかし、それは放任主義と違うことは云うまでもない。形式的に一斉保育の形態をとつても、保育者の頭に於てこの立場がしっかりとにぎられ、幼児の自主性、社会性を重視されることが必要である。これは広義の自由保育となる。

## 二、自由保育の必要なる理由

1、保育（教育）の目標を一言すれば主体性のある人格の形成にある。つまり、創造性、

真実性、独立性、批判、自信、誠実、真理探求への勇気をもつた主体性のある人間形成である。正しい意味での自由保育がこの人格形成の重要な条件となる。教育の中立とは、時の政府や圧力に左右されないことである。

憲法、教育基本法、児童憲章、保育要領に示されている教育の方針に沿つていかなければならない。すべての児童は、愛と誠によつて、結ばれ、よき国民として人類の平和と文化に貢献するように導かれる姿としてありたい。教育二法案（防衛二法案）、秘密保護法などに驚され、逆コース便乗の一斉保育は危険なことである。

## 2、幼児の心理的特性

イ、未分化である子供の生活において、

遊びと仕事が未分化化している。極端に云えば、遊びが生活である。遊びを通して、未分化な面が社会面を発達することが出来る。子供の遊びの指導は自ら進んで自発的に遊ぶように保育することが大切である。命ぜられて遊んでいる子供はない。

ロ、自己中心的（非社会性）を社会化する必要がある。グループ活動、ある意味で自発的集団グループにより学ばせる。

ハ、興味性——自発的なもの、興味を誘発するものが幼児保育に大切である。即ち興味を誘発する自由保育である。

3、精神分析、精神衛生、臨床心理の立場  
乳幼児時代の躰と環境が、その子供の人格の形成に影響するものである。子供と云うものは基本的欲求を持つものである。この欲求が満たされている場合に人格の適応が見られるのである。フロイトレシジョンの時、不適応な人格が形成される。子供の欲求がいつも何ものにもしづられずに起るが、それを自由保育により一層助長できるものである。

4、プロジェクトイブ・テクニク（新しい人格診断と治療）——プロジェクトイブ・

テクニクによって、子供の無意識的な世界が投影される。この方法が有効なためには、教師と幼児とが相混り、教師は自由遊び、自由絵、自由仕事を通して子供の性格が診断され、精神治療がなされるのである。

### 三、現実の問題（表による解説）

——約百五十、二十問題——

現実には一斉保育より自由保育に賛成するものが多い。しかしこれには色々の障害の理由があるため、なかく、実行には移されていないところが多いのではないであろうか。現状の困難を克服してやっていると、少数あるが。

私は父兄両親、社会、役人（教育委員会、指導主事）などの幼児教育に対する関心が高いことは認めるが、幼児教育者自身が果して幼児教育を重視し、常に反省し、研究に励んでいるか、（多くの困難はあっても）積極的に勇気をもって、団結して行動に移しているものがどれだけあるかを、私はうたがうものである。

自由保育を行うたにめは、設備改善も、園児数の制限も大事だが、保育者の熱意と積極性——あらゆる困難を打破し、且つ改善してやらねば幼児保育の重任が果せないという旺盛な意欲こそ必要である。そして、この意欲こそ上から与えられるものでなく、諸姉自らの中から湧き出るものでなければならぬ。

もし今日にして反動的、逆コース的風潮に押し流され、再び愛する児童達にかつての誤りを繰返すことがあってはならない。

その意味で、逆コース的、劃一的、教師中心の一斉保育が重視されることは断じて許されない。

76頁より続く

## 二、一斉保育を支える二つの問題点

1、体力的に弱い子、欠如のある子供も、他の子供と一緒にさせ、自分も他の子と同じような行動ができるという自信を得させることが出来る。パーソナリティ・トレーニングを養う面から一斉保育ということは有効と考えられる。

2、子供を丈夫にするためには、方向をもった保育が必要である。その際に優位に適應させることが大切であるが適應への目標として一斉保育を考えることができる。

以上が一斉保育を支える点である。

## 三、結 論

いずれにせよ結論は諸先生と同様に、二者の優劣を評価するのではなく、諸条件を考慮して保育者が適宜に両者を使い分けていく技術が必要であろう。